

石川県の年齢別推計人口 ～令和4年10月1日現在～

石川県民文化スポーツ部統計情報室
 経済産業グループ 朝田・山口
 TEL (076)225-1342 (直通)
 内線 3748

令和4年10月1日現在の石川県の年齢別推計人口について取りまとめました。
 概要は以下のとおりです。

(この数値は、外国人を含んでいます。)

1 令和4年10月1日現在推計人口

令和4年10月1日現在推計人口は、1,117,827人(男542,612人、女575,215人)である。

2 年齢(5歳階級)別人口

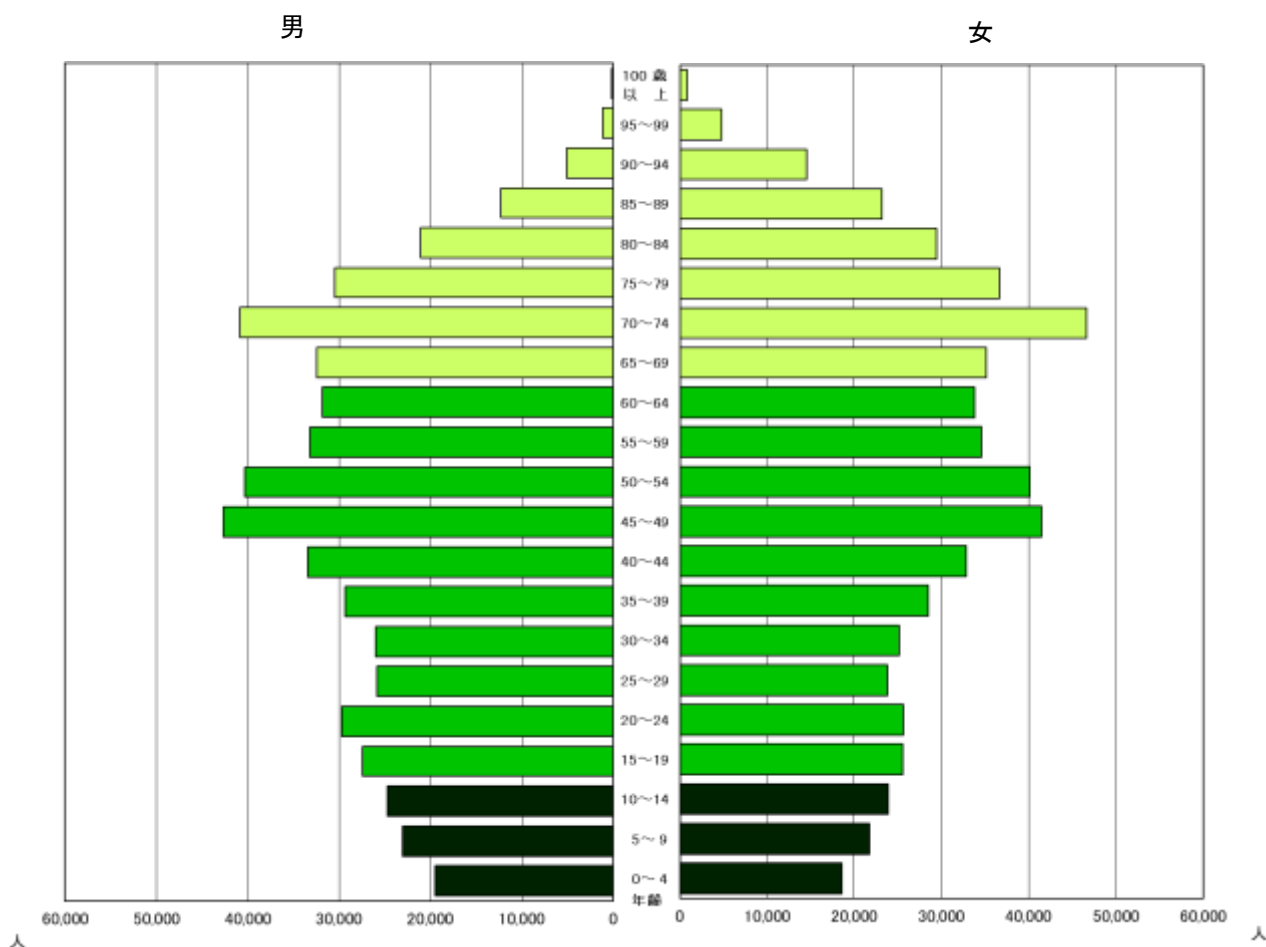
最も多いのは、70～74歳の87,508人

5歳階級別人口では、70～74歳が87,508人と最も多くなっている。

次いで多いのは、45～49歳の84,199人、その次が50～54歳の80,430人となっている。

【図1、参考表1】

図1 年齢(5歳階級)・男女別人口(令和4年10月1日現在推計)



※70～74歳及び75～79歳には、第1次ベビーブーム(昭和22～24年生まれ)の人口が含まれている。

また、45～49歳及び50～54歳には、第2次ベビーブーム(昭和46～49年生まれ)の人口が含まれている。

3 年齢3区分別人口

年少人口、生産年齢人口及び老年人口の全てにおいて減少

		構成比	前年比
年少人口（0～14歳）	131,475人	（12.0%）	△ 3,042人（0.2ポイント低下）
生産年齢人口（15～64歳）	631,399人	（57.5%）	△ 4,165人（0.0ポイント上昇）
老年人口（65歳以上）	334,566人	（30.5%）	△ 112人（0.2ポイント上昇）

年齢3区分別人口では、年少人口（0～14歳）が131,475人、生産年齢人口（15～64歳）が631,399人、老年人口（65歳以上）が334,566人となっている。

構成比をみると、年少人口は12.0%で過去最低、老年人口は30.5%で過去最高となっている。前年に比べ、年少人口は3,042人の減少（0.2ポイントの低下）、生産年齢人口は4,165人の減少（0.0ポイントの上昇）、老年人口は112人の減少（0.2ポイントの上昇）となっている。

また、老年人口のうち65歳から74歳までは155,042人（構成比14.1%）、75歳以上は179,524人（16.4%）であり、それぞれの老年人口に占める構成比は46.3%、53.7%となっている。

【図2-1、図2-2、参考表1】

図2-1 年齢3区分別人口の構成(令和3年・令和4年)

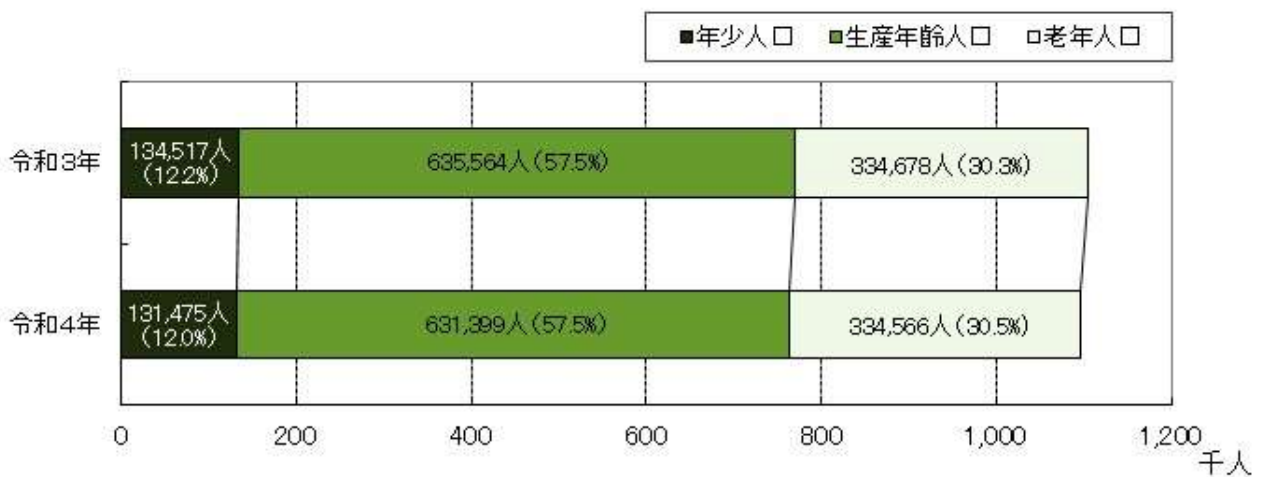
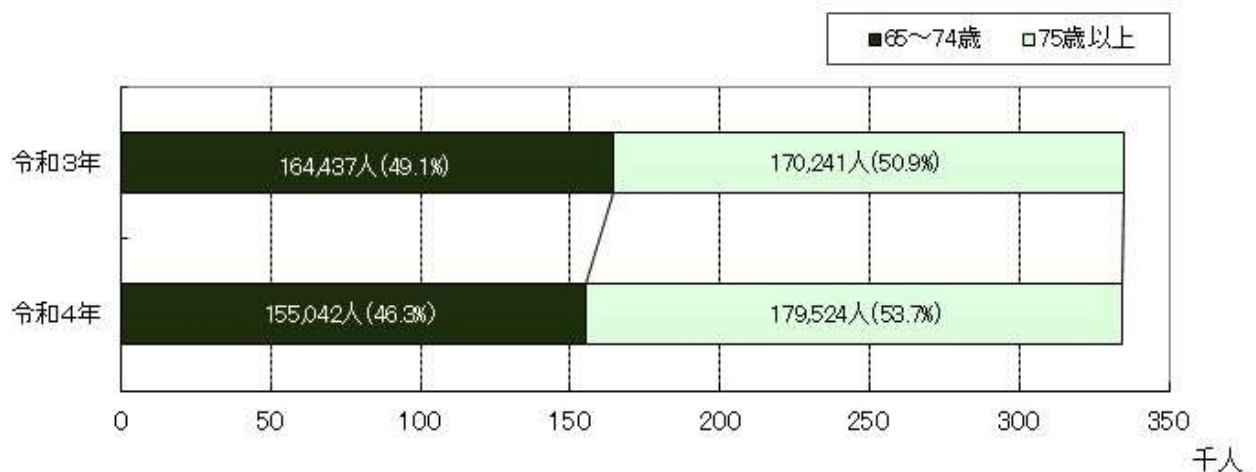


図2-2 老年人口の構成(令和3年・令和4年)



市町別に割合をみると、年少人口では川北町の15.5%、生産年齢人口では野々市市の65.1%、老年人口では珠洲市の52.8%が最も高くなっている。

【表1-1、参考表2】

表1-1 年齢3区分別人口割合の順位(令和4年10月1日現在)

区分 順位	年少人口 (0~14歳)		生産年齢人口 (15~64歳)		老年人口 (65歳以上)	
	市町名	割合 (%)	市町名	割合 (%)	市町名	割合 (%)
1	川北町	15.5	野々市市	65.1	珠洲市	52.8
2	野々市市	14.4	津幡町	61.3	能登町	52.0
3	かほく市	13.7	金沢市	60.5	穴水町	50.3
4	能美市	13.6	川北町	60.4	輪島市	47.9
5	白山市	13.5	能美市	59.8	志賀町	46.6
15	志賀町	8.2	志賀町	45.1	金沢市	27.5
16	能登町	7.2	輪島市	44.9	能美市	26.6
17	輪島市	7.2	穴水町	42.8	津幡町	25.3
18	珠洲市	7.1	能登町	40.8	川北町	24.0
19	穴水町	6.9	珠洲市	40.1	野々市市	20.5

対前年増減率をみると、石川県全体では年少人口(0~14歳)が2.3%低下、生産年齢人口(15~64歳)が0.7%低下、老年人口(65歳以上)が0.0%低下している。

市町別にみると、年少人口はかほく市、生産年齢人口は川北町、老年人口は野々市市の増加率が最も高くなっている。

【表1-2】

表1-2 年齢3区分別人口対前年増減率の順位(令和4年10月1日現在)

区分 順位	年少人口 (0~14歳)		生産年齢人口 (15~64歳)		老年人口 (65歳以上)	
	市町名	増減率 (%)	市町名	増減率 (%)	市町名	増減率 (%)
1	かほく市	1.8	川北町	1.1	野々市市	1.3
2	津幡町	△1.2	野々市市	0.6	内灘町	1.2
3	小松市	△1.2	能美市	0.2	津幡町	1.1
4	白山市	△1.4	かほく市	0.2	白山市	0.6
5	内灘町	△1.4	小松市	△0.2	能美市	0.3
15	七尾市	△5.3	宝達志水町	△2.9	宝達志水町	△1.2
16	川北町	△5.5	志賀町	△3.0	輪島市	△1.6
17	輪島市	△5.5	珠洲市	△3.7	能登町	△1.6
18	志賀町	△6.6	能登町	△4.0	穴水町	△1.6
19	珠洲市	△6.6	輪島市	△5.3	珠洲市	△1.8

※増減率 = $\frac{\text{令和4年各年齢区分別人口} - \text{令和3年各年齢区分別人口}}{\text{令和3年各年齢区分別人口}} \times 100$

4 10年間（平成24年～令和4年）の変化

続く少子高齢化、減少する生産年齢人口

年少人口割合は、県全体で平成24年の13.5%から令和4年の12.0%へと1.5ポイント低下している。市町別にみると全ての市町で低下しており、低下幅が最も大きいのは川北町の5.1ポイントとなっている。

生産年齢人口割合は、県全体ではこの10年間で61.5%から57.5%へと3.9ポイント低下している。市町別にみると全ての市町で低下しており、低下幅が最も大きいのは、能登町の8.6ポイントとなっている。

一方、老年人口割合は、県全体ではこの10年間で25.0%から30.5%へと5.5ポイント上昇している。市町別にみると全ての市町で上昇しており、上昇幅が最も大きいのは、志賀町の10.5ポイントとなっている。

【表2、図3～6】

表2 年齢3区分別人口割合の推移(平成24年・令和4年)

市町名	年少人口			生産年齢人口			老年人口		
	平成24年 (%)	令和4年 (%)	割合の 増減 (ポイント)	平成24年 (%)	令和4年 (%)	割合の 増減 (ポイント)	平成24年 (%)	令和4年 (%)	割合の 増減 (ポイント)
石川県	13.5	12.0	△ 1.5	61.5	57.5	△ 3.9	25.0	30.5	5.5
金沢市	13.5	12.1	△ 1.4	64.1	60.5	△ 3.6	22.4	27.5	5.0
七尾市	11.6	9.4	△ 2.1	57.1	50.5	△ 6.5	31.4	40.0	8.7
小松市	14.6	12.9	△ 1.8	60.4	57.8	△ 2.5	25.0	29.3	4.3
輪島市	9.2	7.2	△ 2.0	51.0	44.9	△ 6.1	39.8	47.9	8.1
珠洲市	8.9	7.1	△ 1.8	48.1	40.1	△ 8.0	43.0	52.8	9.8
加賀市	12.2	10.3	△ 1.8	58.3	52.9	△ 5.4	29.5	36.8	7.2
羽咋市	11.2	9.1	△ 2.1	56.0	49.6	△ 6.4	32.8	41.3	8.5
かほく市	14.3	13.7	△ 0.6	59.8	56.6	△ 3.2	25.8	29.7	3.8
白山市	15.1	13.5	△ 1.6	62.8	57.6	△ 5.1	22.1	28.9	6.7
能美市	16.2	13.6	△ 2.6	61.8	59.8	△ 2.0	22.0	26.6	4.6
野々市市	14.9	14.4	△ 0.5	68.7	65.1	△ 3.6	16.4	20.5	4.1
川北町	20.6	15.5	△ 5.1	60.8	60.4	△ 0.4	18.6	24.0	5.4
津幡町	15.8	13.4	△ 2.4	64.9	61.3	△ 3.6	19.3	25.3	5.9
内灘町	14.6	12.5	△ 2.2	64.2	59.2	△ 5.0	21.2	28.3	7.1
志賀町	10.7	8.2	△ 2.5	53.2	45.1	△ 8.0	36.1	46.6	10.5
宝達志水町	12.0	8.8	△ 3.2	56.7	50.6	△ 6.2	31.3	40.7	9.4
中能登町	13.2	11.5	△ 1.7	55.7	50.5	△ 5.2	31.1	38.0	6.9
穴水町	8.4	6.9	△ 1.5	49.9	42.8	△ 7.1	41.6	50.3	8.7
能登町	8.7	7.2	△ 1.4	49.3	40.8	△ 8.6	42.0	52.0	10.0

(注) 各年10月1日現在

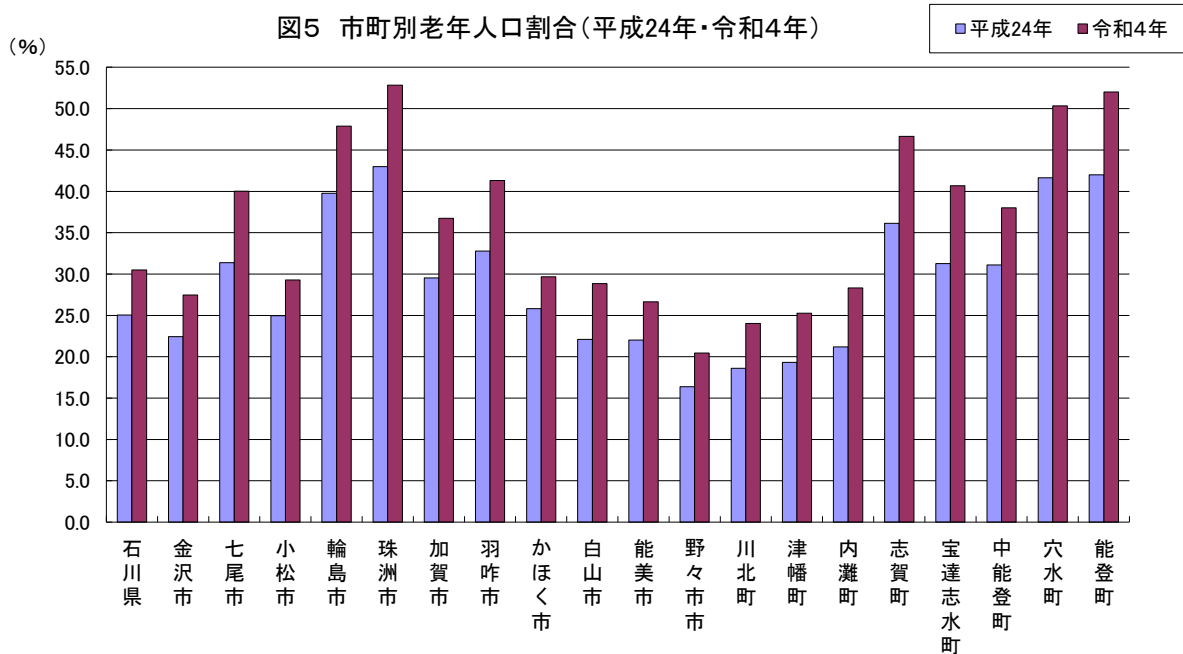
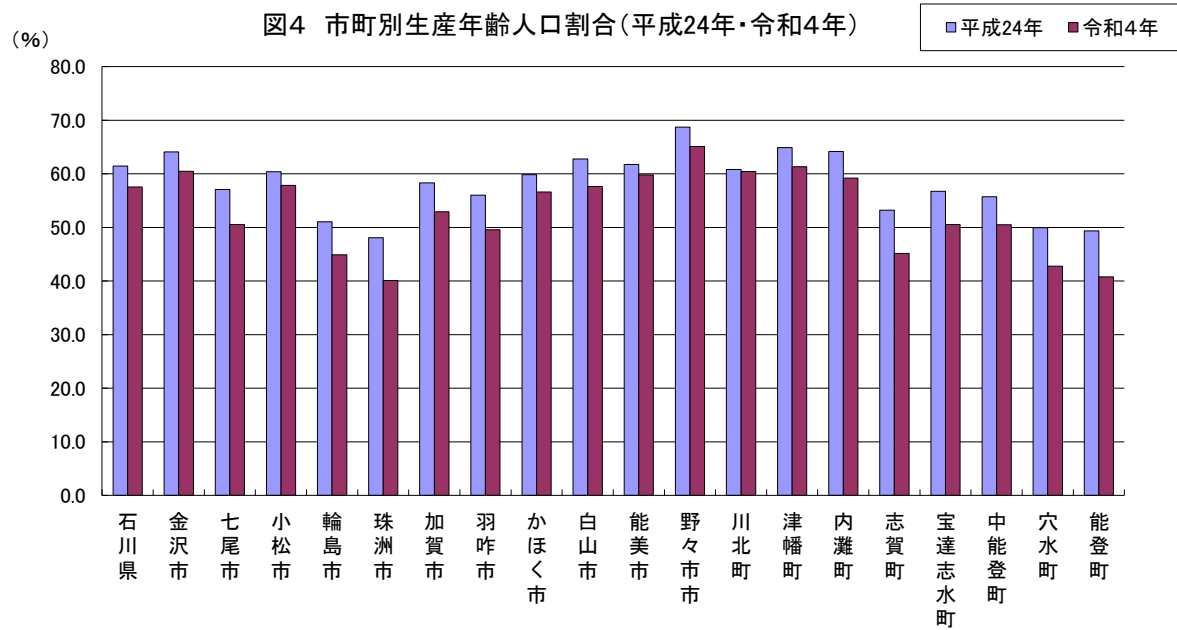
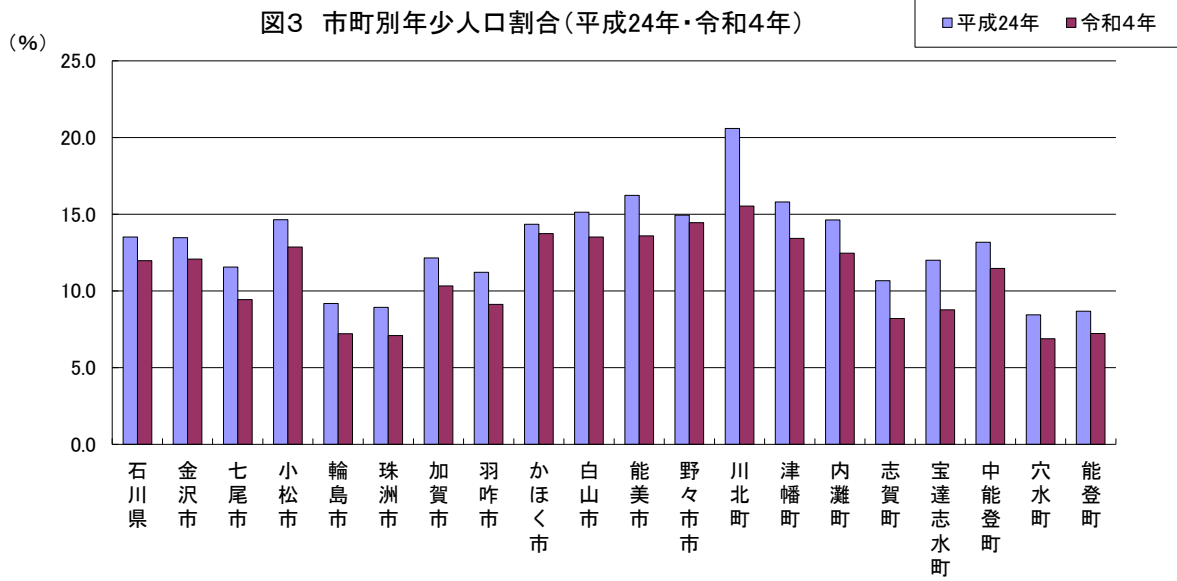
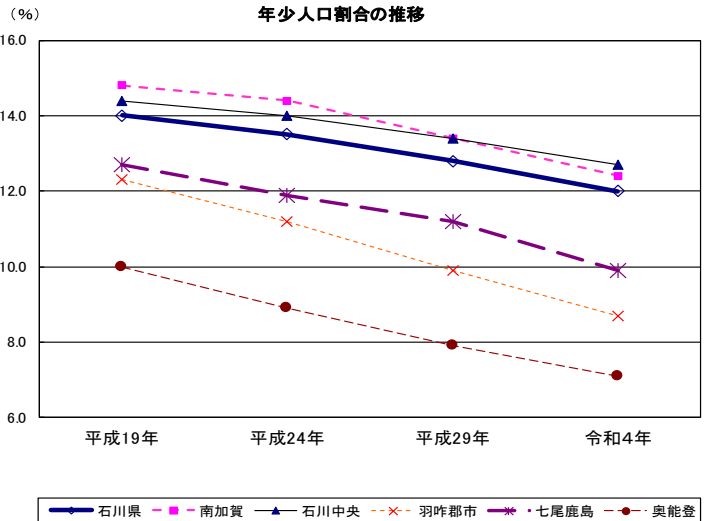


図6 年齢3区分別人口割合(県内地域別)の推移(平成19年～令和4年)

・年少人口割合の推移

(単位: %)

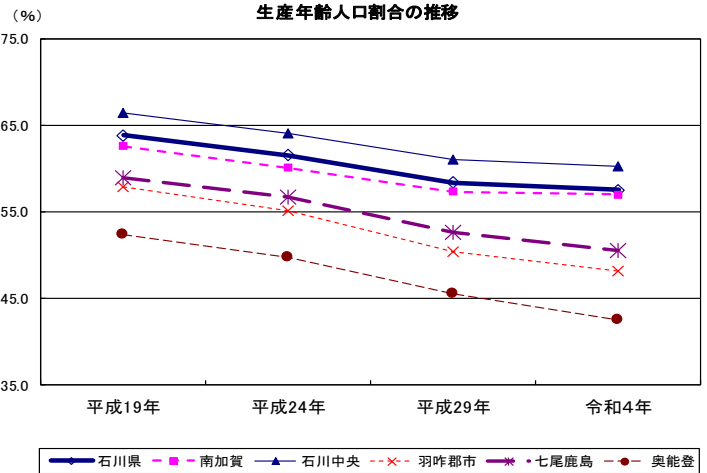
	平成19年	平成24年	平成29年	令和4年
石川県	14.0	13.5	12.8	12.0
南加賀	14.8	14.4	13.4	12.4
石川中央	14.4	14.0	13.4	12.7
羽咋都市	12.3	11.2	9.9	8.7
七尾鹿島	12.7	11.9	11.2	9.9
奥能登	10.0	8.9	7.9	7.1



・生産年齢人口割合の推移

(単位: %)

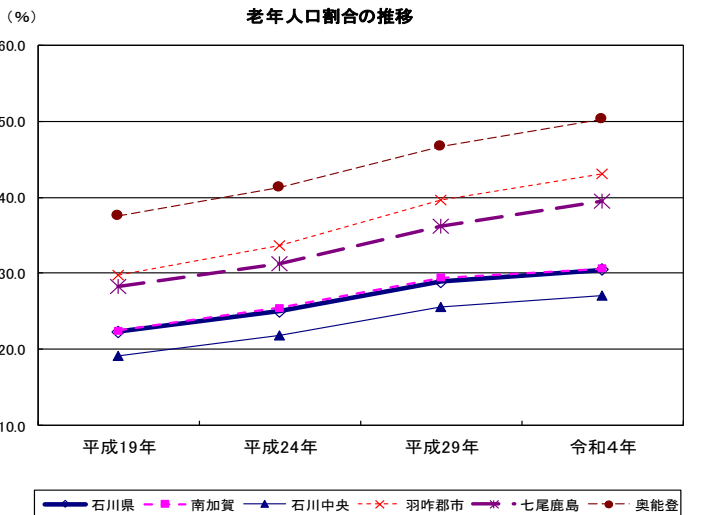
	平成19年	平成24年	平成29年	令和4年
石川県	63.8	61.5	58.4	57.5
南加賀	62.6	60.1	57.3	57.0
石川中央	66.4	64.1	61.0	60.2
羽咋都市	57.9	55.1	50.4	48.2
七尾鹿島	59.0	56.7	52.7	50.5
奥能登	52.4	49.8	45.6	42.5



・老年人口割合の推移

(単位: %)

	平成19年	平成24年	平成29年	令和4年
石川県	22.3	25.0	28.9	30.5
南加賀	22.5	25.5	29.4	30.6
石川中央	19.1	21.9	25.6	27.1
羽咋都市	29.8	33.7	39.6	43.1
七尾鹿島	28.3	31.3	36.2	39.5
奥能登	37.6	41.3	46.6	50.3



※区分

南加賀：小松市、加賀市、能美市、能美郡
 石川中央：金沢市、かほく市、白山市、野々市市、河北郡
 羽咋都市：羽咋市、羽咋郡
 七尾鹿島：七尾市、鹿島郡
 奥能登：輪島市、珠洲市、鳳珠郡

5 人口動態

令和3年10月1日から令和4年9月30日までの1年間で、自然動態は出生者数7,208人、死亡者数13,831人で6,623人の減少だった。社会動態は県外からの転入者数23,573人、県外への転出者数24,269人で696人の減少だった。

【表3～5、参考表4】

※社会動態の「県外」には、他県との転出入（外国人を含む。）、国外との転出入及び不詳を含む。

表3 年次別、要因別人口動態数の推移

年次	人口増減数	自然動態			社会動態（※）			国勢調査結果による補間補正数
		自然増減数	出生者数	死亡者数	社会増減数	県外からの転入者数	県外への転出者数	
平成24年	△ 3,040	△ 2,375	9,670	12,045	△ 987	20,872	21,859	322
25	△ 3,616	△ 2,962	9,515	12,477	△ 976	21,958	22,934	322
26	△ 3,243	△ 2,949	9,159	12,108	△ 616	21,588	22,204	322
27	△ 2,730	△ 3,205	9,263	12,468	153	22,345	22,192	322
28	△ 2,717	△ 3,278	9,052	12,330	88	23,110	23,022	473
29	△ 2,897	△ 3,858	8,773	12,631	487	23,717	23,230	474
30	△ 4,009	△ 4,257	8,485	12,742	△ 225	23,886	24,111	473
令和元年	△ 5,310	△ 4,766	8,048	12,814	△ 1,018	24,786	25,804	474
2	△ 6,549	△ 4,955	7,855	12,810	△ 2,067	21,755	23,822	473
3	△ 7,380	△ 5,791	7,404	13,195	△ 1,589	21,056	22,645	0
4	△ 7,319	△ 6,623	7,208	13,831	△ 696	23,573	24,269	0

（注）各年の人口増減数は、前年10月から当年9月までの自然動態、社会動態及び国勢調査結果による補間補正数の計である。

表4 過去1年間の自然動態の順位(令和3年10月1日～令和4年9月30日)

順位	増加				減少			
	増加数 (人)		増加率 (%)		減少数 (人)		減少率 (%)	
1	野々市市	156	野々市市	0.27	金沢市	△ 2,026	珠洲市	△ 2.23
2	川北町	3	川北町	0.05	加賀市	△ 640	能登町	△ 2.23
3					七尾市	△ 622	穴水町	△ 2.00
4					輪島市	△ 470	輪島市	△ 1.97
5					小松市	△ 453	志賀町	△ 1.59

（注）令和3年10月から令和4年9月までの1年間の計である。

表5 過去1年間の社会動態の順位(令和3年10月1日～令和4年9月30日)

順位	増加				減少			
	増加数 (人)		増加率 (%)		減少数 (人)		減少率 (%)	
1	金沢市	322	かほく市	0.61	輪島市	△ 381	輪島市	△ 1.60
2	かほく市	215	津幡町	0.27	七尾市	△ 377	宝達志水町	△ 0.92
3	白山市	137	能美市	0.22	加賀市	△ 284	七尾市	△ 0.76
4	能美市	106	白山市	0.12	宝達志水町	△ 109	珠洲市	△ 0.68
5	津幡町	100	野々市市	0.10	志賀町	△ 101	中能登町	△ 0.57

（注）令和3年10月から令和4年9月までの1年間の計である。